

〈特集「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」他〉

スワヒリ語：  
特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」  
「所有・存在表現」

Swahili:  
'Passive expression', 'Aspect', 'Modality', 'Voice and related expressions' and 'Expressions of possession and existence'

米田 信子・宮崎 久美子  
Nobuko Yoneda, Kumiko Miyazaki

大阪大学大学院人文学研究科  
Graduate School of Humanities, Osaka University

**要旨：**本稿は、特集補遺「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」（『語学研究所論集』第14-18号，2009-2013，東京外国語大学）にスワヒリ語（ニジェール・コンゴ語族）のデータを寄与するものである。

**Abstract:** This report aims to contribute Swahili data to the supplemental issues focusing on 'Passive expression', 'Aspect', 'Modality', 'Voice and related expressions', and 'Expressions of possession and existence' (Journal of the Institute of Language Research 14–18, 2009–2013, Tokyo University of Foreign Studies).

**DOI:** <https://doi.org/10.15026/0002001059>

**キーワード：**スワヒリ語，バントゥ諸語，アフリカ，言語類型論，言語間対照

**Keywords:** Swahili, Bantu languages, Africa, linguistic typology, contrastive linguistics

## 1. はじめに

本稿では、『語学研究所論集』第14-18号（2009-2013年）の5つの特集テーマに関するスワヒリ語のデータを報告する。スワヒリ語は、バントゥ諸語<sup>1</sup>の1つであり、ケニア、タンザニア、ルワンダ、ウガンダの公用語の1つに定められている他、東アフリカの共通語として機能している。話者数は、第一言語話者は約16,000,000人程度と言われているが（Eberhard et al. 2022: 300）第二言語や第三言語としての話者を含めるとその何倍にもなる。広く普及していることからバリエーションも多く見られるが、本稿ではタンザニアで話されている「標準スワヒリ語（*Kiswahili sanifu*）」と呼ばれているものを扱う。調査協力者はタンザニア北部に位置するマニャラ県生まれのスワヒリ語母語話者I.Z氏（1982年生れ）である。第2節で本稿の前提となるスワヒリ語文法の説明、第3節で「受動表現」、第4節で「アスペクト」、



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> ニジェール・コンゴ語族に属する最大の言語群。その数は500–600（Hammarström 2019: 18, 米田他 2012: 151, 米田 2022: 201 他）と言われ、アフリカ大陸赤道以南に広く分布する。

第5節で「モダリティ」、第6節で「ヴォイスとその周辺」、第7節で「所有・存在表現」についてそれぞれ報告する。なお本稿の研究は JSPS 科研費の助成を受けている（課題番号：19K00604, 23K00501, 24K03838）。

## 2. スワヒリ語の基礎的文法事項

各テーマのデータを示す前に、それらのデータを見ていくにあたって前提となる文法事項について説明する。

スワヒリ語には、バントゥ諸語の特徴である「名詞クラス」<sup>2</sup>と呼ばれる名詞の分類とそれを基盤とする文法呼応システムがある。スワヒリ語には 15 種類の名詞クラスがある。各名詞が属しているクラスは名詞語幹の前に付される名詞クラス接頭辞によって示される。名詞修飾語には、主名詞が属するクラスに一致した接頭辞が付く。

- (1) a. m-koba w-angu 「私のかばん」  
 3-bag 3-my  
 b. ma-chungwa y-angu 「私のオレンジ」  
 6-oranges<sup>3</sup> 6-my  
 c. ki-kombe ch-angu 「私のコップ」  
 7-cup 7-my

直説法の動詞は以下のように構成される。

- (2) 主語接辞—TA 接辞—(目的語接辞—) 動詞語根 (—派生接辞) —末尾辞  
 tu- na- wa- andik -i -a  
 1PL- PRS- 3PL- write -APPL -FV  
 「私たちは彼らに(手紙を)書いている」

主語接辞 (SM) と目的語接辞 (OM) はそれぞれ主語名詞と目的語名詞が属している名詞クラスに一致した形で現れる呼応接辞である。主語名詞や目的語名詞が文中に現れない場合は、これらの接辞はそれぞれ主語名詞と目的語名詞を指す代名詞として機能する。主語接辞は直説法において動詞を構成する必須要素だが、目的語接辞は目的語が有生名詞の場合にのみ必須であり、それ以外の場合はオプションである。動詞語根と主語接辞の他、テンス・アスペクト (TA) 接辞と末尾辞 (FV) が動詞を構成する必須要素である。ただし現在時制否定形は TA 接辞はゼロ (グロスには  $\emptyset$  を省略) になる。また末尾辞がつくのはバントゥ語源の動詞 (不定形の末尾が *-a* のもの) だけであり、それ以外の動詞にはつかない。これは直説法に限らず、命令法や接続法においても同様である。

<sup>2</sup> バントゥ諸語の名詞クラスには比較研究のためにバントゥ祖語に基づいて一定の順番で番号が付けられており、バントゥ諸語研究では一般的にその番号で名詞クラスを表す。名詞に付しているのがその名詞が属する名詞クラス、それ以外に付いている番号は一致する名詞クラスを示している。

<sup>3</sup> 名詞語幹には単複の意味は含まれておらず、その単語が単数形か複数形かを決定するのは名詞クラス接頭辞のほうである。したがって厳密には *chungwa* という名詞語幹が 'oranges' という複数形の意味を持っているわけではない。しかしながら本稿では、単複の区別を読者に明示するために、名詞が複数形の場合には語幹のグロスでそれを示すことにする。

- (3) a. M-koba u-li-anguk-a. 「カバンが落ちた。」  
 3-bag SM3-PST-fall-FV
- b. Ma-chungwa ya-li-anguk-a. 「オレンジが落ちた。」  
 6-oranges SM6-PST-fall-FV
- (4) a. Ki-kombe ki-li-vunj-ik-a. 「コップが割れた。」  
 7-cup SM7-PST-break-STT-FV
- b. Ki-li-vunj-ik-a. 「それ（コップを指す）が割れた。」  
 SM7-PST-break-STT-FV
- (5) a. Mw-alimu a-li-wa-on-a wa-anafunzi. 「先生は学生たちを見た。」  
 1-teacher SM1-PST-OM2-see-FV 2-students
- b. Wa-talii wa-li-on-a m-lima. 「観光客たちは山を見た。」  
 2-tourists SM2-PST-see-FV 3-mountain

### 3. 「受動表現」（語研論集 第14号）

ここではスワヒリ語の受動表現のデータを示す。スワヒリ語には受動を表す動詞派生接辞 *-(li)w* がある。行為者は前置詞 *na* を伴って現れるのが一般的である。

1-1 AはBに叩かれた。

- (6) Baraka a-li-pig-w-a na Neema.  
 1.Baraka SM1-PST-hit-PASS-FV by 1.Neema  
 「バラカはネエマに叩かれた。」

1-2 AはBに足を踏まれた。

- (7) Baraka a-li-kanyag-w-a m-guu na Neema.  
 1.Baraka SM1-PST-step-PASS-FV 3-foot by 1.Neema  
 「バラカはネエマに足を踏まれた。」

1-3 AはBに財布を盗まれた。

- (8) a. Baraka a-li-ib-i-w-a pochi (yake) na Neema.  
 1.Baraka SM1-PST-steal-APPL-PASS-FV 9.wallet (9.her) by 1.Neema  
 「バラカはネエマに財布を盗まれた。」
- b. \*Baraka a-li-ib-w-a pochi (yake) na Neema.  
 1.Baraka SM1-PST-steal-PASS-FV 9.wallet (9.her) by 1.Neema

(8)では動詞 *iba* 「盗む」が単なる受身形ではなく、受影を表す適用形になった上で受身形になっている。

1-4 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。

(9) a. Jana usiku ni-li-li-w-a na m-toto\_mchanga. Kwa hiyo  
yesterday 11.night SM1SG-PST-cry-PASS-FV by 1-baby for 9.that  
si-ku-wez-a ku-lala hata kidogo.

NEG.SM1SG-NEG.PST-be.able-FV INF-sleep even a.little.

「昨夜は赤ちゃんに泣かれた。そのため少しも寝られなかった。」

b. Jana usiku m-toto\_mchanga a-li-li-a sana. Kwa hiyo  
yesterday 11.night 1-baby SM1-PST-cry-FV very for 9.that  
si-ku-wez-a ku-lala hata kidogo.

NEG.SM1SG-NEG.PST-be.able-FV INF-sleep even a.little.

「昨夜赤ちゃんはすごく泣いた。そのため少しも寝られなかった」

スワヒリ語では自動詞の受動化も可能である。必ずしも「被害」である必要はないが、被害が含意されることが多い。ただし、(9a)に関して調査協力者からは、文法的ではあるが実際に使うのは(9b)のような能動態の表現である、とのコメントがあった。

1-5 新しいビルが (A によって) 建てられた。

(10) Jengo ji-pya li-li-jeng-w-a (na serikari).  
5.building 5-new SM5-PST-build-PASS-FV (by 9.government)

「新しいビルが (政府によって) 建てられた。」

1-6 カナダではフランス語が話されている。

(11) Ki-faransa ki-na-zungumz-w-a Kanada.  
7-French SM7-PRS-speak-PASS-FV 9.Canada

「カナダではフランス語が話されている。」

行為者が現れない受動形も可能である。

1-7 財布が (A に) 盗まれた。

(12) Pochi i-li-ib-i-w-a (na Baraka).  
9.wallet SM9-PST-steel-APPL-PASS-FV (by 1.Baraka)

「財布が (バラカに) 盗まれた。」

(8a)と同様に、ここでも適用形の受身が用いられている。

1-8 壁に絵が掛けられている。

(13) Picha i-me-tundik-w-a u-kuta-ni.  
9.picture SM9-PRF-hang-PASS-FV 11-wall-LOC

「絵が壁に掛けられている。」

1-9 AはBに愛されている。

- (14) Baraka a-na-pend-w-a na Ali.  
 1.Baraka SM1-PRS-love-PASS-FV by 1.Ali  
 「バラカはアリに愛されている。」

1-10 AはBに／から「…」と言われた。

- (15) a. Baraka a-li-ambi-w-a na Neema kwamba a-ta-end-a Japani mwezi  
 1.Baraka SM1-PST-tell-PASS-FV by 1.Neema COMP SM1-FUT-go-FV 9.Japan 3.month  
 u-ja-o.  
 SM3-come-RM3  
 「バラカはネエマから，来月日本に行くと言われた。」
- cf. b. Baraka a-li-ambi-w-a na Neema habari ya ndoa yake.  
 1.Baraka SM1-PST-tell-PASS-FV by 1.Neema 9.news 9.of 9.wedding 9.her  
 「バラカはネエマから彼女の結婚式の知らせを伝えられた。」

1-10-a AさんはBさんに呼ばれて，今Bさんの部屋に行っています。

- (16) Baraka a-li-it-w-a na Neema, sasa yu-po<sup>4</sup> chumba-ni kwake Neema.  
 1.Baraka SM1-PST-call-PASS-FV by 1.Neema now PP1-EXT16 7.room-LOC LOC17.her 1.Neema  
 「バラカはネエマに呼ばれて，今ネエマの部屋にいる。」

(16)では「行く」という動詞ではなく，「いる」という存在表現が用いられている。

1-10-b BさんがAさんを読んで，Aさんは今Bさんの部屋に行っています。

- (17) a. Neema a-li-mw-it-a Baraka (a-ka-end-a chumba-ni kwake Neema),  
 1.Neema SM1-PST-OM1-call-FV 1.Baraka (SM1-CONS-go-FV 7.room-LOC LOC17.her 1.Neema)  
 sasa yu-po hapo.  
 now PP1-EXT16 16.there  
 「ネエマがバラカを読んで（バラカはネエマの部屋に行って）今バラカはそこにいます。」
- b. Neema a-li-mw-it-a Baraka halafu Baraka a-me-end-a chumba-ni  
 1.Neema SM1-PST-OM1-call-FV 1.Baraka then 1.Baraka SM1-PRF-go-FV 7.room-LOC  
 kwake Neema.  
 LOC17.her 1.Neema  
 「ネエマがバラカを読んで，それからバラカはネエマの部屋に行きました。」

1-10-b を忠実に訳すと(17a)のような表現になる。括弧内の動詞はイベントを時系列で表す継起形 (consecutive) が用いられている。括弧の部分がなければ部屋への移動は表せないが，バラカが現在ネエマの部屋にいることはその後ろの部分で示されているので，括弧部分はないほうが自然である。(17b)のほうは「行く」を完了形にしたことで，バラカがまだネエマの部屋にいることが表されている。

<sup>4</sup> 現在形の存在文は「SM-存在辞 (po/ko/mo)」と構成されるが，主語名詞が1クラスに属する名詞の場合に限り，例外的に主語接辞 (SM) a-の代わりに代名詞接頭辞 (PP) yu-が用いられる。

#### 4. 「アスペクト」(語研論集 第15号)

スワヒリ語のテンス・アスペクトは、主語接辞の後ろに現れるテンス・アスペクト接辞によって示されるのが基本である。また複合時制が用いられることもある。

2-1 ~さん(固有名詞)は/あの人(は)もう来た。

- (18) a. Aisha a-mesha-kuj-a<sup>5</sup> (tayari).  
 1.Aisha SM1-COMPV-come-FV (already)  
 「アイシャはもう来た。」
- b. Aisha a-mesha-fik-a (tayari).  
 1.Aisha SM1-COMPV-arrive-FV (already)  
 「アイシャはもう到着した。」
- (18)' a. (Mtu) yule a-mesha-kuj-a (tayari).  
 (1.person) 1.that SM1-COMPV-come-FV (already)  
 「あの人(は)もう来た。」
- b. (Mtu) yule a-mesha-fik-a (tayari).  
 (1.person) 1.that SM1-COMPV-arrive-FV (already)  
 「あの人(は)もう到着した。」

2-2 ~さん(固有名詞)は/あの人(は)もう来ている。

- (19) a. Aisha a-me-kuj-a tayari.  
 1.Aisha SM1-PRF-come-FV already  
 「アイシャはもう来ている。」
- b. Aisha a-me-fik-a tayari.  
 1.Aisha SM1-PRF-arrive-FV already  
 「アイシャはもう到着している。」
- c. Aisha a-mesha-kuj-a (tayari).  
 1.Aisha SM1-COMPV-come-FV (already)  
 「アイシャはもう来ている。」
- d. Aisha a-mesha-fik-a (tayari).  
 1.Aisha SM1-COMPV-arrive-FV (already)  
 「アイシャはもう到着している。」
- (19)' a. (Mtu) yule a-me-kuj-a tayari.  
 (1.person) 1.that SM1-PRF-come-FV already  
 「あの人(は)もう来ている。」

<sup>5</sup> 「来る」という動詞の語幹は *ja* だが、スワヒリ語では1音節動詞語幹は(下に述べるいくつかの環境を除き)語幹の前に *ku* という音節を挿入する。この *ku* は歴史的には不定形を表す接頭辞に由来すると考えられているが、音韻調整のためだけに挿入されるものであり、文法的にも意味的にも機能はしていない。本稿ではこの音節が挿入される場合には、これを語根の一部としてグロスを付けることにする。本稿で扱うデータのなかで1音節動詞語幹でもこの *ku* が挿入されない環境は、①動詞中に OM がある場合、②接続形、③否定現在形、④否定完了形である。1音節動詞語幹には、*ja* 「来る」の他、*la* 「食べる」、*nywa* 「飲む」、*wa* 「である、なる (be 動詞)」がある。

- b. (Mtu) yule a-me-fik-a tayari.  
 (1.person) 1.that SM1-PRF-arrive-FV already  
 「あの人はもう到着している。」
- c. (Mtu) yule a-mesha-kuj-a (tayari).  
 (1.person) 1.that SM1-COMPV-come-FV (already)  
 「あの人はもう来た。」
- d. (Mtu) yule a-mesha-fik-a (tayari).  
 (1.person) 1.that SM1-COMPV-arrive-FV (already)  
 「あの人はもう到着した。」

(19c, d)と(19’c, d)はそれぞれ(18), (18’)と同じである。スワヒリ語には *mesha-* (completive)と *me-* (perfect) という2種類の完了形がある。前者はイベントの完了に焦点があるのに対し，後者はイベント完了の結果としての「現在の状態」に焦点がある。ここでも *me-*を用いた(19a, b)のほうは「(到着した結果) 今ここにいる」という結果に焦点があるのに対し，*mesha-*を用いた(19c, d)のほうは「来る」という行為がすでに完了しているということに焦点がある。

2-3 ~さん (固有名詞) は／あの人はまだ来ていない。

- (20) a. Aisha ha-ja-j-a bado.  
 1.Aisha NEG.SM1-NEG.PRF-come-FV yet  
 「アイシャはまだ来ていない。」
- b. Aisha ha-ja-fik-a bado.  
 1.Aisha NEG.SM1-NEG.PRF-arrive-FV yet  
 「アイシャはまだ到着していない。」
- (20)’ a. (Mtu) yule ha-ja-j-a bado.  
 (1.person) 1.that NEG.SM1-NEG.PRF-come-FV yet  
 「あの人はまだ来ていない。」
- b. (Mtu) yule ha-ja-fik-a bado.  
 (1.person) 1.that NEG.SM1-NEG.PRF-arrive-FV yet  
 「あの人はまだ到着していない。」

2-4 ~さん (固有名詞) は／あの人はまだ来ない。

ここで用いられる表現は 2-3 と同じである。スワヒリ語では「まだ来ていない」と「まだ来ない」には区別がない。どちらも完了の否定が用いられる。完了の肯定では *me-*と *mesha-*の区別があったが，否定にはそのような区別もない。

2-5 ~さん (固有名詞) は／あの人はもう (すぐ) 来る。

- (21) Aisha a-na-kuj-a sasa\_hivi.  
 1.Aisha SM1-PRS-come-FV soon/right.now  
 「アイシャはすぐに来る。」
- (21)’ (Mtu) yule a-na-kuj-a sasa\_hivi.  
 (1.person) 1.that SM1-PRS-come-FV soon/right.now  
 「あの人はすぐに来る。」

2-6 (あ!) ~さんが来た! [その人が来るのに気づいた場面での発話]

- (22) a. (Ala!) Aisha a-me-fik-a.  
 (oh) 1.Aisha SM1-PRF-arrive-FV  
 「{アイシャを待っているときに} あ, アイシャが到着した!」
- b. (Ala!) Aisha a-me-kuj-a.  
 (oh) 1.Aisha SM1-PRF-come-FV  
 「{特に期待していないときに} あれ, アイシャが来た!」

(22a)は待っている人が来るのに気づいた場合, (22b)は待っているわけではないときに予期せぬ人がこちらに来ていること気付いた場合に用いられる表現である。

2-7 昨日~さんが来たよ.

- (23) Aisha a-li-kuj-a jana.  
 1.Aisha SM1-PST-come-FV yesterday  
 「昨日アイシャが来た。」

2-8 昨日~さんは来なかったよ.

- (24) Aisha ha-ku-j-a jana.  
 1.Aisha NEG.SM1-NEG.PST-come-FV yesterday  
 「昨日アイシャは来なかった。」

2-9 (私は) あのリンゴをもう食べた.

- (25) Ni-mesha-kul-a tufaha lile (tayari).  
 SM1SG-PRF-eat-FV 5.apple 5.that (already)  
 「私はあのリンゴをもう食べた。」

2-10 私はあのリンゴをまだ食べていない。 / 私はあのリンゴをまだ食べない。

- (26) Si-ja-l-a tufaha lile bado.  
 NEG.SM1SG-NEG.PRF-eat-FV 5.apple 5.that yet  
 「私はあのリンゴをまだ食べていない。」
- (26)' Si-ta-kul-a tufaha lile bado.  
 NEG.SM1SG-FUT-eat-FV 5.apple 5.that yet  
 「私はあのリンゴをまだ食べない。」

2-11 あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています / 食べているところです.

- (27) (Mtu) yule a-na-kul-a tufaha lile sasa\_hivi.  
 (1.person) 1.that SM1-PRS-eat-FV 5.apple 5.that right.now/soon  
 「あの人は今ちょうどあのリンゴを食べています / 食べているところです。」

2-12 窓が開いている／窓が開いていた.

(28) Dilisha li-ko wazi.  
5.window SM5-EXT17 be.open  
「窓は開いている。」

(28)' Dilisha li-li-kuw-a wazi.  
5.window SM5-PST-be-FV be.open  
「窓が開いていた。」

2-13 私は毎朝新聞を読む／読んでいます.

(29) a. Mimi hu-som-a gazeti kila asubuhi.  
1SG HAB-read-FV 5.news.paper every 9.morning  
b. Ni-na-som-a gazeti kila asubuhi.  
SM1SG-PRS-read-FV 5.news.paper every 9.morning  
「私は毎朝新聞を読む／読んでいます。」

(29a)は習慣形 (habitual), (29b)は単純現在形<sup>6</sup>である。習慣形は普遍的なことや習慣を表すことに特化した活用形である。習慣形には主語接辞がつかないため、動詞の前に主語名詞が必須となる。主語接辞がつかないのは直説法としては例外である。単純現在形は、(27)のような現在進行中のことがらだけでなく、(29)のような習慣を表す場合にも用いられる。

2-14 あなたは (あなたの) お母さんに似ている.

(30) U-na-fanan-a na mama yako.  
SM2SG-PRS-resemble-FV COM 9.mother 9.your  
「あなたはあなたのお母さんに似ている。」

前置詞 *na* は 3 節の受動表現では 'by' とグロスを付けているが、'with, and' といった随伴や並列を広く表す前置詞である。接続詞としても用いられる。(30)では随伴を表す前置詞として用いられている。

2-15 私はその頃毎日学校に通っていた.

(31) a. Ni-li-kuw-a ni-ki-end-a shule-ni kila siku wakati huo.  
SM1SG-PST-be-FV SM1SG-SIML-go-FV school-LOC every 9.day 11.time 11.that  
b. Ni-li-kuw-a ni-na-(kw)end-a shule-ni kila siku wakati huo.  
SM1SG-PST-be-FV SM1SG-PRS-go-FV school-LOC every 9.day 11.time 11.that  
「私はその頃毎日学校に行っていた。」

<sup>6</sup> *na-*は、現在進行中のことや習慣や普遍的なことなど「現在」のイベントや事象に広く用いられる。現在時制を表す接辞にはもうひとつ *a-* という形式がある。*a-* の使用頻度および共起する主語接辞には地域差があり、今回の調査では調査協力者からこの形式は出てこなかったが、この形式には習慣や進行といったアスペクト要素が含意されない。一方、単純現在過去進行形や未来進行形といった複合時制では *na-* は進行相を表すアスペクト標示として用いられる。また、コンサルタントに *na-* を用いたスワヒリ語の動詞文を英訳してもらくと、自発的に出てくるのは現在進行形である。これらのことに鑑みると、*a-* のほうがむしろ「単純現在」を呼ばれるべきかもしれない。

- c. Ni-li-end-a            shule-ni    kila siku wakati huo.  
 SM1SG-PST-go-FV    school-LOC every 9.day 11.time 11.that  
 「私はその頃毎日学校に行った。」

現在時制とは異なり、過去時制には習慣に特化した活用形はない。(31a, b)は過去進行形を表す複合時制、(31c)は単純過去形である。過去習慣を表すためにこれらが用いられる。(29)で用いた習慣を表す *hu-* を複合時制にもちいることはできない。

2-16 私は～に（大きな街の名前など）行ったことがある。

- (32) Ni-me-wahi            kw-enda Dodoma.  
 SM1SG-PRF-undertake INF-go 9.Dodoma  
 「私はドドマ（＝タンザニアの首都）に行ったことがある。」

スワヒリ語は、完了形自体に「経験」の用法はない。経験を表すためには、*wahi* という動詞を完了形で用いるのが一般的である。

2-17 やっとバスは走り出した／走り始めた。

- (33) Mwishowe, basi    li-li-anz-a            kw-enda.  
 finally    5.bus SM5-PST-begin-FV INF-go  
 「ついにバスは行き始めた。」

2-18 昨日彼女はずっと寝ていた。

- (34) A-li-lal-a            siku    nzima    jana.  
 SM3SG<sup>7</sup>-PST-sleep-FV 9.day 9.whole yesterday  
 「彼女／彼は昨日1日中寝た。」

2-19 私はそれをちょっと食べてみた。

- (35) a. Ni-li-i-onj-a            kidogo.  
 SM1SG-PST-OM9-taste-FV a.little  
 「私はそれ (ex.バナナ) を少し味見した。」  
 b. Ni-li-jaribu    ku-i-la.  
 SM1SG-PST-try INF-OM9-eat

<sup>7</sup> ここでは *a-* のグロスを 'SM3SG' としているが、これは 1 クラスの主語接辞である。1 クラスは単数形の人物を表す名詞が属するクラスである。したがって代名詞として用いられる場合には三人称単数ということになる。本稿では、1 クラスの主語名詞が文中に現れている場合にはグロスを 'SM1' とするが、主語名詞が文中に現れていない場合、すなわち「彼／彼女」が主語になっている場合には、わかりやすさを優先し、同じ主語接辞のグロスに 'SM3SG' とする。また、*mama* 「母」や *kaka* 「兄」といった親族名称は名詞自体は 9 クラスに属しているにもかかわらず主語接辞は 1 クラスの形で現れる。このように 1 クラス以外の名詞とともに 1 クラスの主語接辞が現れる場合にも、同様の理由で主語接辞のグロスは 'SM3SG' とする。

- c. Ni-li-jaribu ku-la hicho.  
 SM1SG-PST-try INF-eat 7.that  
 「私はそれを食べてみた。」

「～を試す」という表現には(35b)のような「*jaribu* + 不定形動詞」という形もあるが、「食べてみる」に関しては，(35a)の *onja* 「味見する，食べてみる」を使う表現のほうが自然である。

2-20 あの人はそれ（ら）をみんなに分け与えた。

- (36) Yule a-li-m-gaw-i-a kila m-moja kalamu.  
 1.that SM1-PST-OM1-divide-APPL-FV every 1-one 10.pens  
 「あの人はひとりひとりにペンを分け与えた。」

2-21 さあ，（私たちは）行くよ！

- (37) Tu-end-e.  
 SM1PL-go-SBJV  
 「さあ，（私たちは）行きましょう！」

勧誘や提案には接続法が用いられる。スワヒリ語の接続法の構造は「主語接辞－（目的語接辞－）動詞語根（－派生接辞）－接続形末尾辞」である。接続形末尾辞-*e* は，直説法と同様にバントゥ語源以外の動詞にはつかない。

2-22 地球は太陽の周りを回っている。

- (38) a. Dunia hu-zunguk-a jua.  
 9.earth HAB-round-FV 9.sun  
 b. Dunia i-na-zunguk-a jua.  
 9.earth SM9-PRS-round-FV 9.sun  
 「地球は太陽の周りをまわっている。」

(38a)は習慣形，(38b)は単純現在形である。

2-23 あの木は今にも倒れそうだ。

- (39) a. Mti ule u-na-tak-a ku-anguka.  
 3.tree 3.that SM3-PRS-want-FV INF-fall  
 b. Mti ule karibu ku-anguka.  
 3.tree 3.that near INF-fall  
 「あの木は倒れそうだ。」

(39a)で用いられている動詞 *taka* は「欲する」という意味を表すが，「～しそうである」「傾向がある」といった表現にも用いられる。

2-24 (私は) あやうく転ぶところだった.

- (40) a. Ni-li-tak-a ku-anguka.  
SM1SG-PST-want-FV INF-fall  
b. Karibu ni-anguk-e.  
near SM1SG-fall-SBJV  
c. Nusura ni-anguk-e.  
almost SM1SG-fall-SBJV  
「もう少しで転ぶところだった。」

「～するところだった」という表現には, (39a)と同様の表現の他に, 英語の‘almost’にあたるような *nusura / karibu* に接続形もしくは不定形の動詞を後続させる構文がある.

2-25 明日客が来るので, パンを買っておく.

- (41) Tu-ta-kuw-a na wa-geni kesho kwa hiyo bora ni-nunu-e m-kate.  
SM1PL-FUT-be-FV COM 2-guests tomorrow for 9.that better SM1SG-buy-SBJV 3-bread  
「明日私たちのところに客が来るから, 私はパンを買っておくのが良いだろう。」

「準備」を表す特別な形式はない. ここで用いているのは「～するのが良い」という意味の「*bora* + 接続形」という形である.

2-26 (私は) ～に (街とか市場とか) 行ったとき, この袋を買った.

- (42) Ni-li-nunu-a m-fuko huu ni-li-po-end-a Tokyo.  
SM1SG-PST-buy-FV 3-bag 3.this SM1SG-PST-RM16-go-FV 9.Tokyo  
「私は東京に行ったときにこの袋を買った。」

従属節 *nilipoenda* の語根の前にある *po-*は16クラス (場所クラス) に一致した関係接辞で, 場所や時を表すときに用いられる. 従属節を主節の前に置くことも可能である.

2-27 (私は) ～に (街とか市場とか) 行く時/行く前に, この袋を買った.

- (43) Ni-li-nunu-a m-fuko huu ni-li-po-end-a Tokyo.  
SM1SG-PST-buy-FV 3-bag 3.this SM1SG-PST-RM16-go-FV 9.Tokyo  
「私は東京に行くとき/行ったときにこの袋を買った。」  
(43)' a. Ni-li-nunu-a m-fuko huu kabla si-ja-end-a Tokyo.  
SM1SG-PST-buy-FV 3-bag 3.this before NEG.SM1SG-NEG.PRF-go-FV 9.Tokyo  
b. Ni-li-nunu-a m-fuko huu kabla ya kw-enda Tokyo.  
SM1SG-PST-buy-FV 3-bag 3.this before 9.of INF-go 9.Tokyo  
「私は東京に行く前にこの袋を買った。」

前置詞 *kabla* 「～の前」に節を後続させる場合, その節の動詞は常に完了否定 (未完了) 形になる. 日本語の「～しないうちに」という表現に似ている.

2-28 (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

- (44) a. Ni-li-ju-a                      a-li-nunu-a                      m-fuko huu                      soko-ni.  
           SM1SG-PST-know-FV    SM3SG-PST-buy-FV    3-bag    3.this    5.market-LOC
- b. Ni-li-kuw-a                      ni-mesha-ju-a                      a-li-nunu-a                      m-fuko huu                      soko-ni.  
           SM1SG-PST-be-FV    SM1SG-COMPV-know-FV    SM3SG-PST-buy-FV    3-bag    3.this    5.market-LOC
- 「私は彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。」

(44a)は単純過去形，(44b)は複合時制の過去完了形である。単純過去を用いる場合は，発話時よりも前にその事実を知っていたということを表しているのに対し，過去完了形を用いる場合は，発話時よりも前の過去のある時点ですでにそれを知っていたということを表す。

### 5. 「モダリティ」(語研論集 第16号)

スワヒリ語にはモダリティ表現の特別な形式がほとんど見られない。説明的な動詞を用いたり，文修飾語を加えるなどしてモダリティを表現するケースが多いようである。

3-1 (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。

- (45) U-na-wez-a                      ku-rudi                      nyumba-ni                      (u-ki-maliz-a                      kazi                      hiyo).  
           SM2SG-PRS-be.able-FV    INF-return    9.house-LOC    (SM2SG-COND-finish-FV    9.work    9.that)
- 「(その仕事が終わったら) あなたは帰れます／帰ってもよい。」

許可に特化した形式はなく，可能を表す動詞 *weza* が用いられる。

3-2 (腐っているから，あなたは) それを食べてはいけない／それを食べるな。

- (46) U-si-pasw-e                      ku-la                      hicho.  
           SM2SG-NEG-be.obliged-SBJV    INF-eat    7.that
- 「あなたはそれを食べてはいけない／食べるべきではない。」
- (46)' u-si-l-e                      hicho.  
           SM2SG-NEG-eat-SBJV    7.that
- 「それを食べるな。」

いずれも否定の接続形が用いられている。「食べてはいけない」と「食べるな」をあえて区別するのであれば(46)のような表現も可能であるが，実際にはこれらは区別されることなく(46)'が用いられるというのが調査協力者の意見である。教科書や文法書には否定義務として「*lazima* + 否定接続形」が紹介されているが (Wilson 1985: 123; 中島 2000: 174 他)，調査協力者はこの用法を否定している。

3-3 (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。

- (47) a. Lazima    tu-rudi                      nyumba-ni                      sasa.  
           must                      SM1PL-return    9.house-LOC    now
- b. I-na-bidi                      tu-rudi                      nyumba-ni                      sasa.  
           SM 9-PRS-be.obliged    SM1PL-return    9.house-LOC    now
- 「私たちはもう帰らなければならない。」

(47a)は義務表現に用いられる「*lazima* + 接続形」の構文である。(47b)の *bidi* は義務を表す動詞である。*bidi* は常に形式主語接辞 *i-* (9 クラスの主語接辞) を伴って現れ、接続形の節もしくは不定形動詞が後続する。

3-4 (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。

- (48) a. Bora u-chuku-e mw-avuli.  
better SM2SG-take-SBJV 3-umbrella  
b. Heri u-chuku-e mw-avuli.  
better SM2SG-take-SBJV 3-umbrella  
c. Afadhali u-chuku-e mw-avuli.  
rather SM2SG-take-SBJV 3-umbrella  
「傘をもっていったほうがよい。」

3-5 歳をとったら、子供の言うことを聞くべきだ／聞くものだ。

- (49) a. U-na-po-zeek-a, u-na-pasw-a ku-wa-sikiliza wa-toto wako.  
SM2SG-PRS-RM16-get.old-FV SM2SG-PRS-be.obliged-FV INF-OM2-listen.to 2-children 2.your  
「歳をとったときは、あなたの子どもの言うことを聞くべきだ。」  
b. U-na-po-zeek-a, lazima u-wa-sikiliz-e wa-toto wako.  
SM2SG-PRS-RM16-get.old-FV must SM2SG-OM2-listen.to-SBJV 2-children 2.your  
c. U-na-po-zeek-a, lazima ku-wa-sikiliza watoto wako.  
SM2SG-PRS-RM16-get.old-FV must INF-OM2-listen.to 2.children 2.your  
「歳をとったときは、あなたの子どもの言うことを聞かなければならない。」

3-6 お腹が空いたので、(私は) 何か食べたい。

- (50) Ni-na njaa, (kwa hivyo) ni-na-tak-a ku-la (kitu).  
SM1SG-COM 9.hunger (for that) SM1SG-PRS-want-FV INF-eat (7.thing)  
「私はお腹が空いている、それで (何か) 食べたい。」

因果関係を表す *kwa hivyo* の代わりに並列の *na* を用いることも可能である。

3-7 私が持ちましょう。

- (51) a. Mimi ni-ta-beb-a.  
1SG SM1SG-FUT-carry-FV  
「私が持ちます。」  
b. Acha (mimi) ni-beb-e.  
leave (1SG) SM1SG-carry-SBJV  
「私が持ちましょう。」  
c. Ni-ki-beb-e?  
SM1SG-OM7-carry-SBJV  
「私がそれを持ちましょうか? (Shall I carry it?)」

d. Acha ni-ki-beb-e.

leave SM1SG-OM7-carry-SBJV

「私がそれを持ちましょう。(Let me carry it.)」

(51a)は直説法未来，(51b-d)は接続法を用いた表現である。一人称単数は主語接辞と目的語接辞がいずれも *ni-* で同形である。さらに，命令形の末尾辞は通常は基本末尾辞 *-a* が用いられるが，OM が挿入される場合には接続末尾辞 *-e* を用いるという規則がある。そのため，(51b)では *acha* がなければ動詞語頭の *ni-* が OM として解釈され，「私を担げ」という命令形に解釈されてしまう。*acha* というのは英語の‘leave’にあたる動詞である。SM や TA 接辞を伴わずに動詞語幹のみで現れているので，形としては命令形である。スワヒリ語では命令形の後ろに続く節は基本的に接続形であり，(51b)でも *acha* という命令形を前置することで，それに続く *nibebe* が *ni-* を主語接辞とする接続形であると解釈される。したがって(51b)では「私が持ちましょう」という申し出として成立させるために *acha* は必須である。一方，(51c)のように目的語接辞が別にある場合には，*ni-* が目的語接辞ではなく主語接辞であるということが明らかであるため，*acha* がなくても申し出を表す接続形として成立する。ただし，*acha* を加えたほうが申し出のニュアンスが強くなるようである。たとえば，*acha* がある場合には，重い荷物を担いでいる老人に近づいていって「私が持ちましょう」とすでに手を差し伸べているような積極的な申し出 (let me carry it.) であるのに対し，*acha* がない場合には，少し離れたところから「大丈夫ですか？持ちましょうか？」と尋ねているような緩やかな申し出 (Shall I carry it?) になる。上記のとおり *acha* は命令形だが，実際には，それに続く接続形が表す内容をより確実にするための副詞のように機能しているようである ((68), (69)も参照のこと)。したがって3-7のような申し出の場合には，*acha* をつけることで「私が運びましょう」というよりもむしろ「私が運びます！」という宣言や意思表示のようなニュアンスがあるようだが，調査協力者に申し出を表す表現を尋ねた際に自発的に出てくるのは *acha* をつけた表現であった。

3-8 じゃあ，一緒に昼ご飯を食べましょう。

(52) Tu-l-e chakula cha mchana pamoja.

SM1PL-eat-SBJV 7.food 7.of 9.afternoon together

「一緒に昼食を食べましょう。」

3-9 一緒に昼ご飯を食べませんか？

(53) a. Tu-l-e chakula cha mchana pamoja?

SM1PL-eat-SBJV 7.food 7.of 9.afternoon together

「一緒に昼食を食べましょう／食べましょうか？」

b. U-nge-pend-a ku-la chakula cha mchana pamoja?

SM2SG-IRR-like-FV INF-eat 7.food 7.of 9.afternoon together

「昼食を一緒に食べるのはどうでしょうか？」

接続法を用いた(53a)はカジュアルな勧誘で，提案と同じ表現である。一方，仮想形 (irrealis) を用いた(53b)はあまり親しくない人に対する，よりフォーマルな勧誘である。こちらは相手の意向をうかがうニュアンスが強い。

3-10 明日, 良い天気になるといいなあ. / 明日は良い天気になってほしいなあ.

- (54) a. Ni-na-tumaini ku-ta-kuw-a na jua kesho.  
 SM1SG-PRS-hope SM17-FUT-be-FV COM 9.sun tomorrow.  
 b. Ni-na-tumaini ku-w-e na jua kesho.  
 SM1SG-PRS-hope SM17-be-SBJV COM 9.sun tomorrow  
 「私は明日良い天気になってほしい。」

(54a)は従属節に直説法の未来形が用いられているのに対し, (54b)では接続法が用いられている. どちらも主語接辞は17クラスの *ku-* が用いられている. 17クラスは「場所クラス」と呼ばれる名詞クラスのひとつだが, 場所だけでなく天候や状況などを表す場合にも用いられる.

3-11 (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい.

- (55) Let-e hicho sasa\_hivi.  
 bring-SBJV 7.that right.now/soon  
 「今すぐそれを持ってきなさい。」

スワヒリ語の命令形は主語接辞と TA 接辞を付けず, 動詞語幹がそのまま現れる. 目的語接辞がつく場合は接続形末尾辞 (SBJV) *-e*, つかない場合には基本末尾辞 (FV) *-a* が用いられるのが基本だが, 動詞 *leta* 「持ってくる」は例外で, 目的語接辞がつかない場合でも接続形末尾辞が用いられる.

3-12 そのペンをちょっと貸していただけませんか?

- (56) U-na-wez-a ku-ni-azima kalamu hiyo?  
 SM2SG-PRS-be.able-FV INF-OM1SG-lend 9.pen 9.that  
 「そのペンを私に貸してもらえませんか (<そのペンを貸すことができますか)」

3-13 あの人は中国語が読めます. / あの人は中国語を読むことができます.

- (57) Yule (mtu) a-na-wez-a ku-soma Kichina.  
 1.that (1.person) SM1-PRS-be.able-FV INF-read 7.Chinese  
 「あの人は中国語を読むことができます。」

3-14 明かりが暗くて, ここに何が書いてあるのか, 読めない.

- (58) a. Si-wez-i ku-soma ki-li-cho-andik-w-a hapa kwa sababu  
 NEG.SM1SG-be.able-NEG.FV INF-read SM7-PST-RM7-write-PASS-FV here for 9.reason  
 ya giza.  
 of 9.darkness  
 「暗さのためにここに書いてあることを私は読むことができない。」  
 b. Ku-na giza na si-wez-i ku-soma ki-li-cho-andik-w-a  
 SM17-COM 9.darkness CONJ NEG.SM1SG-be.able-NEG.FV INF-read SM7-PST-RM7-write-PASS-FV  
 hapa.  
 here  
 「暗い, だから私はここに書かれてあることを読むことができない。」

3-15 (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。

- (59) Lazima wa-w-e wa-me(sha)-fik-a tayari.  
 must SM3PL-be-SBJV SM3PL-PRF-arrive-FV already  
 「彼らはすでに到着しているに違いない。」

3-16 彼は明日はたぶん来ないだろう。

- (60) Labda ha-ta-kuj-a kesho.  
 perhaps NEG.SM3SG-FUT-come-FV tomorrow  
 「明日はおそらく彼は来ないだろう。」

推測を表す特別な形式はなく，副詞を用いて表すことになる。推測を表す副詞には *labda* の他に *pengine* もある。ここでもどちらを使うことも可能である。

3-17 彼らはまだ来ないなんて，きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

- (61) a. Labda gari li-me-harib-ik-a njia-ni maana ha-wa-ja-fik-a bado.  
 perhaps 5.car SM5-PRF-damage-STT-FV 9.road-LOC meaning NEG-SM3PL-NEG.PRF-arrive-FV yet  
 「おそらく車が途中で故障しているのだろう。なぜならまだ彼らが到着していないから」  
 b. Bado ha-wa-ja-fik-a, ni-na-fikiri gari li-me-harib-ik-a njia-ni.  
 yet NEG-SM3PL-NEG.PRF-arrive-FV SM1SG-PRS-think 5.car SM5-PRF-damage-STT-FV 9.road-LOC  
 「まだ彼らは到着していない。私は車が途中で壊れたのだと思う。」

3-18 (昼間だからあの人は家に) さあ，いるかもしれないし，いないかもしれない。

- (62) a. A-na-wez-a ku-wa nyumba-ni au a-si-w-e-po.  
 SM3SG-PRS-be.able-FV INF-be 9.house-LOC or SM3SG-NEG-be-SBJV-EXT16  
 「彼は家にいるかもしれないし，いないかもしれない。」  
 b. A-na-wez-a ku-wa nyumba-ni au la.  
 SM3SG-PRS-be.able-FV INF-be 9.house-LOC or no  
 「彼は家にいるかもしれないし，そうでないかもしれない。」

3-19 (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

- (63) I-na-onekan-a u-na homa.  
 SM9-PRS-be.seen-FV SM2SG-COM 9.fever  
 「あなたは熱があるようだ。」

動詞 *onekana* は *ona* 「見る，感じる」から派生した動詞である。「見える (be seen)」と訳されるのが一般的であるが，視覚からの判断だけでなく感覚からの判断にも用いられる。9 クラスの主語接辞 *i-*がここでは形式主語のように用いられている。

3-20 (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

- (64) a. I-na-sem-ekan-a mvua i-ta-nyesh-a kesho.  
 SM9-PRS-say-POT-FV 9.rain SM9-FUT-rain-FV tomorrow  
 「明日雨が降ると言われている。」

- b. Wa-na-sem-a mvua i-ta-nyesh-a kesho.  
 SM3PL-PRS-say-FV 9.RAIN SM9-FUT-rain-FV tomorrow  
 「(人々は) 明日雨が降ると言っている。」

どちらも伝聞だが, (64a)よりも(64b)のほうが「確からしさ」は高い印象がある。

3-21 もしお金があつたら, あの車を買うんだけどなあ.

- (65) (Kama) ni-nge-kuw-a na pesa ni-nge-nunu-a gari lile.  
 (if) SM1SG-IRR-be-FV COM 10.money SM1SG-IRR-buy-FV 5.car 5.that  
 「もし私がお金を持っていたら, あの車を買うんだけどなあ。」

3-22 もしあなたが教えてくれていなかったら, 私はそこにたどり着けなかったでしょう.

- (66) Kama u-si-ngali-ni-ambi-a, ni-si-ngali-wez-a ku-fika huko.  
 if SM2SG-NEG-IRR.PST-OM1SG-tell-FV SM1SG-NEG-IRR.PST-be.able-FV INF-arrive 17.there  
 「もしあなたが私に教えてくれなかったら, 私はそこに到着できなかっただろう。」

3-23 (あの人は) 街へ行きたがっている.

- (67) Yule m-tu a-na-tak-a kw-enda m-ji-ni.  
 1.that 1-person SM1-PRS-want-FV INF-go 3-town-LOC  
 「あの人は町に行きたい。」

三人称の願望の場合でも一人称と同じ形がそのまま用いられる.

3-24 僕にもそれを少し飲ませろ.

- (68) a. Ni-ya-nyw-e kidogo.  
 SM1SG-OM6-drink-SBJV a.little  
 b. Acha ni-ya-nyw-e kidogo.  
 leave SM1SG-OM5-drink-SBJV a.little  
 「私にそれを少し飲ませなさい。」

接続形の前に動詞 *acha* を置くことで, より明確な意思表示になる. *acha* の詳細については 3-7 を参照のこと.

3-25 これはあの人に持って行かせろ/持って行かせよう.

- (69) Acha a-chuku-e hiki.  
 leave SM3SG-take-SBJV 7.this  
 「これを彼に持って行かせよう。」

(68)と同じく, 三人称の主語接辞を用いた接続形を用いるだけで三人称命令になるが, 接続形の前に動詞 *acha* を置くほうが自然である.

3-26 そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい.

- (70) U-I-e vitafunio vi-li-vyo-po<sup>8</sup> meza-ni baadaye.  
 SM2SG-eat-SBJV 8.snacks SM8-be-RM8-EXT16 9.table-LOC later  
 「テーブルの上にあるお菓子を後で食べなさい。」

3-27 もっと早く来ればよかった.

- (71) Laiti ni-nge-kuj-a mapema zaidi.  
 if SM1SG-IRR-come-FV early more  
 「もっと早く来ていればなあ。」

*laiti* は仮想形と共に「後悔」を表す接続詞である。これがなくても文は成立するが、*laiti* を付けることで後悔のニュアンスが明確になる。

3-28 あなたも一緒に行ったら（どうですか）？

- (72) a. U-na-ona-je u-ki-end-a (pamoja) na-ye?  
 SM2SG-PRS-see/feel-INTER SM2SG-COND-go-FV (together) COM-3SG  
 b. U-na-ona-je u-end-e na-ye (pamoja)?  
 SM2SG-PRS-see/feel-INTER SM2SG-go-SBJV COM-3SG (together)  
 「彼と一緒に行くのはどうですか？」  
 c. U-nge-end-a pamoja na-ye?  
 SM2SG-IRR-go-FV together COM-3SG  
 「彼と一緒に行ったら？」

3-29 オレがそんなこと知るか！

- (73) Ni-ta-jua-je (kuhusu) hayo.  
 SM1SG-FUT-know-INTER (about) 6.those  
 「私がそれをどうやって知るの！？」

3-30 これを作った（料理した）のは，お母さんだよね？／いいえ，私が作ったのよ.

- (74) A-li-ye-pik-a hiki ni mama, si-vyo?  
 SM1-PST-RM1-cook-FV 7.this COP 9.mother NEG-RM8  
 「これを料理したのはお母さんですよ？」  
 Si mama bali mimi.  
 NEG 9.mother but 1SG  
 「お母さんではなく，私です。」

付加疑問文は文末に *sivyo*, *siyo* などを置く.

<sup>8</sup> *li-*は，現在形コピュラ文の関係節にのみ現れる繫辞である。be 動詞ではないが，歴史的に be 動詞に由来することから便宜的にグロスには be とする。

## 6. 「ヴォイスとその周辺」(語研論集 第17号)

スワヒリ語の受身は3節で見たとおりであるが、自他を交替させるのも動詞派生接辞による。スワヒリ語の自他交替についての詳細は、米田(2015), Yoneda (2022)を参照されたい。

4-1-a (風などで) ドアが開いた。

(75) M-lango u-li-fung-uk-a.

3-door SM3-PST-close-SEP.INTR-FV

「ドアが開いた。」

*funga* 「閉める」に反転自動詞形 (separative / reversive intransitive) 派生接辞 *-uk* を付けて派生させたのが *fung-uk-a* 「開く」である。反転形は、他動的な動作によって作られた状態を解除する (undo) ことを表す派生接辞であるが、生産性はなく、いずれもすでに語彙化している。

4-1-b (彼が) ドアを開けた。

(76) A-li-fung-u-a m-lango.

SM1-PST-close-SEP.TR-FV 3-door

「彼がドアを開けた。」

*funga* 「閉める」に反転他動詞形 (separative / reversive transitive) 派生接辞 *-u* を付けたのが *fungua* 「開ける」である。

4-1-c (入り口の) ドアが開けられた。

(77) M-lango u-li-fung-u-liw-a.

3-door SM3-PST-close-SEP.TR-PASS-FV

「ドアが開けられた。」

4-1-d ドアが壊れた。

(78) M-lango u-li-harib-ik-a.

3-door SM3-PST-damage-STT-FV

「ドアが壊れた。」

4-2 私は (自分の) 弟を立たせた。

(79) Ni-li-m-simam-ish-a m-dogo wangu.

SM1SG-PST-OM1-stand-CAUS-FV 1-small 1.my

「私は私の弟/妹を立たせた。」

4-3 私は (自分の) 弟に歌を歌わせた。

(80) Ni-li-m-fany-a m-dogo wangu a-imb-e.

SM1SG-PST-OM1-make-FV 1-small 1.my SM1-sing-SBJV

「私は私の弟/妹を歌わせた。」

「*fanya* + A + 接続形」で「A に～させる」という使役構文になる。

4-4-a (遊びたがっている子供に無理やり) 母は子供をパンを買いに行かせた.

(81) a. Mama a-li-m-fany-a m-toto a-end-e ku-nunua mi-kate.  
9.mother SM3SG-PST-OM1-make-FV 1-child SM1-go-SBJV INF-buy 4-bread

b. Mama a-li-m-lazim-ish-a m-toto a-end-e ku-nunua mi-kate.  
9.mother SM3SG-PST-OM1-be.obliged-CAUS-FV 1-child SM1-go-SBJV INF-buy 4-bread  
「母は子どもにパンを買いに行かせた。」

(81a)は通常の使役構文で，無理やりの場合にも用いることはできるが，必ずしも「強制」のニュアンスがあるわけではない。一方，(81b)のほうは「強制的に」というニュアンスが強い。

4-4-b (遊びに行きたがっているのを見て) 母は子供に遊びに行かせた.

(82) Mama a-li-m-ruhusu m-toto a-end-e ku-cheza.  
9.mother SM3SG-PST-OM1-permit 1-child SM1-go-SBJV INF-play

「母は子どもを遊びに行かせた (<遊びに行くことを許可した).」

4-5-a 私は弟に服を着せた.

(83) Ni-li-m-va-lish-a m-dogo wangu nguo.  
SM1SG-PST-OM1-wear-CAUS-FV 1-small 1.my 9.clothing

「私は弟／妹に服を着せた。」

4-5-b 私は弟にその服を着させた.

(84) a. Ni-li-m-fany-a m-dogo wangu a-va-e nguo hiyo.  
SM1SG-PST-OM1-make-FV 1-small 1.my SM1-wear-SBJV 9.clothing 9.that

b. Ni-li-m-va-lish-a m-dogo wangu nguo hiyo.  
SM1SG-PST-OM1-wear-CAUS-FV 1-small 1.my 9.clothing 9.that

「私は弟／妹にその服を着させた。」

(84b)は(83)と同じ表現である。これも「着させる」の意味で用いることも可能だが，一義的には(4-5-a)の「話者が自分の手で弟に服を着せる」の意味である。

4-6 私は弟にその本をあげた.

(85) Ni-li-m-p-a m-dogo wangu ki-tabu hicho.  
SM1SG-PST-OM1-give-FV 1-small 1.my 7-book 7.that

「私は弟／妹にその本をあげた。」

4-7-a 私は弟に本を読んであげた.

(86) Ni-li-m-som-e-a m-dogo wangu ki-tabu hicho.  
SM1SG-PST-OM1-read-APPL-FV 1-small 1.my 7-book 7.that

「私は弟／妹 (のため) にその本を読んであげた。」

4-7-b 兄は私に本を読んでくれた.

- (87) Kaka yangu a-li-ni-som-e-a ki-tabu.  
 9.elder.brother 9.my SM3SG-PST-OM1SG-read-APPL-FV 7-book  
 「兄は私 (のため) に本を読んでくれた。」

4-7-c 私は母に髪を切ってもらった.

- (88) a. Mama yangu a-li-ni-kat-a nywele.  
 9.mother 9.my SM3SG-PST-OM1SG-cut-FV 10.hair  
 「母は私の髪を切った。」

スワヒリ語では授恩恵と受恩恵に表現の違いはない。いずれも適用形を用いて表現される。(88)で適用形が用いられていないのは、髪が不可譲渡の身体部分だからである。(88)は「母が私の髪を切った」という事実がニュートラルに述べられており、受益や被害といった受影の意味は含まれていない。

4-8-a 私は (自分の) 体を洗った.

- (89) Ni-li-og-a.  
 SM1SG-PST-bathe-FV  
 「私は体を洗った (<水浴びをした)」

4-8-b 私は手を洗った.

- (89) Ni-li-naw-a mi-kono.  
 SM1SG-PST-wash-FV 4-hands  
 「私は (自分の) 手を洗った。」

4-8-c 彼は手を洗った.

- (90) A-li-naw-a mi-kono.  
 SM3SG-PST-wash-FV 4-hands  
 「彼は (自分の) 手を洗った。」

*nawa* はスペースの関係で 'wash' とグロスを付けているが、「自分の体の一部 (手や顔) を洗う」という意味の動詞であり、他者の手を洗う場合には用いることができない。

4-9 (自分のために) 私はその本を買った.

- (91) Ni-li-ji-nunu-li-a ki-tabu hicho.  
 SM1SG-PST-REFL-buy-APPL-FV 7-book 7.that  
 「私は私のためにその本を買った。」

4-10 彼らは (その人たちは) (互いに) 殴り合っていた.

- (92) Wa-li-kuw-a wa-na-pig-an-a.  
 SM3PL-PST-be-FV SM3PL-PRS-hit-RECP-FV  
 「彼らは (互いに) 殴り合っていた。」

4-11 その人たちは（みんな一緒に）街へ行った。

- (93) Wote wa-li-kwend-a m-ji-ni pamoja.  
 2.all SM2-PST-go-FV 3-town-LOC together  
 「みんな一緒に町に行った。」

4-12 その映画は泣ける（その映画を見ると泣いてしまう）。

- (94) Filamu hiyo i-na-ni-li-z-a.  
 9.film 9.that SM9-PRS-OM1SG-cry-CAUS-FV  
 「その映画は私を泣かせる。」

使役表現が用いられている。

4-13-a 私は卵を割った。

- (95) a. Ni-li-pasu-a ma-yai.  
 SM1SG-PST-split-FV 6-eggs  
 b. Ni-li-vunj-a ma-yai.  
 SM1SG-PST-break-FV 6-eggs  
 「私は卵を割った。」

4-13-b（うっかり落として）私はコップを割った／割ってしまった。

- (96) Ni-li-vunj-a ki-kombe kwa bahati mbaya.  
 SM1SG-PST-break-FV 7-CUP for 9.luck 9.bad  
 「私は残念ながらコップを割った。」

動詞の形による意志・無意志の区別はないため，副詞などの文修飾で区別を示すしかない。

4-14-a きのう私はコーヒーを飲みすぎて（飲みすぎたので）眠れなかった。

- (97) a. Jana, si-ku-pat-a u-singizi kwa sababu ni-li-kunyw-a  
 yesterday NEG.SM1SG-NEG.PST-get-FV 11-sleep for 9.reason SM1SG-PST-drink-FV  
 kahawa nyingi.  
 9.coffee 9.many  
 「昨日私はコーヒーをたくさん飲んだので眠れなかった。」  
 b. Jana si-ku-wez-a ku-lal-a vizuri kwa sababu ya kahawa  
 yesterday NEG.SM1SG-NEG.PST-be.able-FV INF-sleep-FV well for 9.reason 9.of 9.coffee  
 nyingi.  
 9.many  
 「昨日私はたくさんのコーヒーのせいでよく眠れなかった。」

4-14-b きのう私は仕事がたくさんあって（たくさんあったので）眠れなかった。

- (98) a. Jana, ni-li-shind-w-a ku-lala kwa sababu ya kazi nyingi.  
 yesterday SM1SG-PST-win-PASS-FV INF-sleep for 9.reason 9.of 10.work 10.many

- b. Jana, si-ku-wez-a ku-lala kwa sababu ya kazi nyingi.  
 yesterday NEG.SM1SG-NEG.PST-be.able-FV INF-sleep for 9.reason 9.of 10.work 10.many  
 「昨日私はたくさんの仕事のせいで眠れなかった。」

随意の不可能と不随意の不可能に形式的な違いはない。(98a)では *shinda* 「勝つ」の受身形が用いられているが、これで「負ける、失敗する」といった意味に語彙化している。

4-15 私は頭が痛い。

- (99) a. Ki-chwa ki-na-ni-um-a.  
 7-head SM7-PRS-OM1SG-hurt-FV  
 b. Ni-na-umw-a (na) ki-chwa.  
 SM1SG-PRS-be.sick-FV (by) 7-head  
 「私は頭が痛い。」

(99b)で用いられている *umwa* は *uma* の受動形であり *kichwa* 「頭」の前に行為者を表す *na* が入ると「私は頭によって痛め付けられている」という受動態のように見える。しかしながら実際には *umwa* は「病気である、具合が悪い」といった意味で語彙化しており、*na* を伴わずに通常の「全体・部分」表現として用いられるのが一般的である。

4-16 彼女は髪が長い。

- (100) A-na nywele ndefu.  
 SM3SG-COM 10.hair 10.long  
 「彼女は長い髪をしている。」

4-17-a 彼は(別の)彼の肩をたたいた。

- (101) A-li-m-pig-a bega-ni.  
 SM3SG-PST-OM3SG-hit-FV 5.shoulder-LOC  
 「彼は(別の)彼の肩をたたいた。」

4-17-b 彼は(別の)彼の腕をつかんだ。

- (102) A-li-m-shik-a m-kono.  
 SM3SG-PST-OM3SG-grab-FV 3-hand  
 「彼は(別の)彼の腕をつかんだ。」

(101)の「肩」の場合には場所を表す *-ni* がつくが、(102)の「腕」のほうはそのまま現れている。これは「たたく」と「つかむ」という動詞の違いではなく身体部位の違いである。これ以外の身体部位では、*kichwa* 「頭」には *-ni* がつき、*mguu* 「足」はこのまま用いられる。この基準については、個人差もあり、まだはっきりわかっていない。

4-18-a 私は彼がやって来るのを見た。

- (103) a. Ni-li-mw-on-a a-ki-j-a.  
 SM1SG-PST-OM3SG-see-FV SM3SG-SIML-come-FV

- b. Ni-li-mw-on-a                      a-na-kuj-a.  
 SM1SG-PST-OM3SG-see-FV SM3SG-PRS-come-FV  
 「私は彼がやって来るのを見た。」

4-18-b 私は彼が今日来ることを知っている。

- (104) Ni-na-ju-a                      a-ta-kuj-a                      leo.  
 SM1SG-PRS-know-FV SM3SG-FUT-come-FV today  
 「私は彼が今日来ることを知っている。」

4-19 彼は自分（のほう）が勝つと思った。

- (105) A-li-ji-on-a                      a-nge-shind-a.  
 SM3SG-PST-REFL-see/feel-FV SM3SG-IRR-win-FV  
 「彼は自分が勝つと思った。」

4-20-a 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。

- (106) Ni-li-kunyw-a      ma-ji      ya-li-yo-mo                      ndani      ya      ki-kombe.  
 SM1SG-PST-drink-FV 6-WATER SM6-be-RM6-EXT18 9.inside 9.of 7-cup  
 「私はコップの水を飲んだ。」

*maji ya kishima* 「井戸の水」(5-36)のように水源の場合には属辞 (of) を用いて表現することが可能であるが、「コップの水」のような場合は *maji ya kikombe* とは言えない。

4-20-b 私は（コップの）水を全部飲んだ。

- (107) Ni-li-kunyw-a      ma-ji      yote ya-li-yo-mo                      ndani      ya      ki-kombe.  
 SM1SG-PST-drink-FV 6-water 6.all SM6-be-RM6-EXT18 9.inside 9.of 7-cup  
 「私はコップの水を全部飲んだ。」

4-21 彼は肉を食べない。

- (108) Ha-l-i                                      nyama.  
 NEG.SM3SG-eat-NEG.FV 9.meat  
 「彼は肉を食べない。」

4-22-a 今日は寒い。

- (109) Ku-na                      baridi leo.  
 SM17-COM cold today  
 「今日は寒い。」

ここでは主語接辞が 17 クラスの所有構文が用いられている。これは英語のいわゆる *there* 構文にあたる構文である。

4-22-b 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）.

- (110) Ni-na-on-a baridi.  
SM1SG-PRS-see/feel-FV cold  
「私は寒い（＜寒く感じる）.」

4-23 人がとても多かったことに私は驚いた.

- (111) Ni-li-shanga-a ku-li-kuw-a na wa-tu wengi.  
SM1SG-PST-be.surprised-FV SM17-PST-be-FV COM 2-people 2.many  
「たくさんの人がいて私は驚いた.」

4-24 雨が降り始めた.

- (112) a. Mvua i-me-anz-a.  
9.rain SM9-PRF-begin-FV  
「雨が始まった.」  
b. Mvua i-me-anz-a ku-nyesha.  
9.rain SM9-PRF-begin-FV INF-rain  
「雨が降り始めた.」

4-25 この本はよく売れる.

- (113) a. Ki-tabu hiki ki-na-uz-ik-a sana.  
7-book 7.this SM7-PRS-sell-STT-FV very  
b. ?Ki-tabu hiki ki-na-uz-a sana.  
7-book 7.this SM7-PRS-sell-FV very  
「この本はよく売れる.」

(113a)は *uza* 「売る」に状態形派生接辞 *-ik* を付けた形である。文法書や学校文法では *uza* は(113b)のように原形 *uza* で「売れる」の意味で用いることができるとされているが、調査協力者からは状態形に派生させた(113a)の *uzika* を用いるほうが適切であるとのコメントがあった。

## 7. 「所有・存在表現」(語研論集 第18号)

スワヒリ語において、現在時制の所有・存在表現は、現在時制のコピュラ文と並んで唯一動詞を用いない文構造である。なお、所有・存在表現やコピュラ文も、過去時制や未来時制では動詞文となる。

5-1 あの人は青い目をしている。／青い目の人・目が青い人

- (114) M-tu yule a-na ma-cho ya bluu.  
1-person 1.that SM1-COM 6-eyes 6.of blue  
「あの人は青い目をしている（＜青い目を持っている）。」  
(114)' m-tu mw-enye ma-cho ya bluu  
1-person 1-with 6-eyes 6.of blue  
「青い目の人」

5-2 あの女 {は／の} 髪が長い・あの女は長い髪をしている／長い髪の女・髪の長い女

- (115) Mw-anamke yule a-na nywele ndefu.  
 1-woman 1.that SM1-COM 10.hair 10.long  
 「あの女性は長い髪をしている。」
- (115)' Nywele zake yule mw-anamke ni ndefu.  
 10.hair 10.her 1.that 1-woman COP 10.long  
 「あの女性の髪は長い。」
- (115)'' mw-anamke mw-enye nywele ndefu  
 1-woman 1-with 10.hair 10.long  
 「長い髪の女性」

5-3 あの人には髭がある。／髭の男

- (116) M-tu yule a-na ndefu.  
 1-person 1.that SM1-COM 9.beard  
 「あの人には髭がある。」
- (116)' m-tu mw-enye ndefu  
 1-person 1-with 9.beard  
 「髭の人」

5-4 あの人には（見る）目がある。／見る目のある人  
 該当する表現はない。

5-5 あの方は22歳だ。／22歳の人

- (117) M-tu yule a-na (u-mri wa) mi-aka 22.  
 1-person 1.that SM1-COM (11-age 11.of) 4-years 22  
 「あの方は22歳です。」
- (117)' m-tu a-li-ye na (u-mri wa) mi-aka 22  
 1-person SM1-be-RM1 COM (11-age 11.of) 4-years 22  
 「22歳の人」

5-6 あの方は優しい性格だ。／優しい性格の人

- (118) Yule ni m-kalimu.  
 1.that COP 1-kind  
 「あの方は優しい（人だ）。」
- (118)' a. m-tu m-kalimu  
 1-person 1-kind  
 「優しい人」
- b. m-tu mw-enye u-kalimu  
 1-person 1-with 11-kindness  
 「優しい人（＜優しさを持った人）」

5-7 あの人は背が高い。／背の高い人

(119) M-tu yule ni m-refu.  
 1-person 1.that COP 1-long/tall  
 「あの人は背が高い。」

(119)' m-tu m-refu  
 1-person 1-long/tall  
 「背が高い人」

5-8 あの人は背が190センチもある。

(120) a. M-tu yule a-na urefu wa sentimita 190.  
 1-person 1.that SM1-COM 11.length 11.of centimeter 190  
 「あの人は190センチの高さをしている。」

b. M-tu yule a-na sentimita 190  
 1-person 1.that SM1-COM centimeter 190  
 「あの人は190センチある。」

5-9 その石は四角い形をしている。／四角い(形の)石

(121) a. Ji-we hilo li-na umbo la m-raba.  
 5-stone 5.that SM5-COM 5.shape 5.of 3-square  
 「その石は四角い形をしている。」

b. Ji-we hilo ni m-raba  
 5-stone 5.that COP 3-square  
 「その石は四角だ。」

c. Ji-we hilo li-na pembe nne.  
 5-stone 5.that SM5-COM 10.corners 10.four  
 「その石は4つの角がある。」

(121)' ji-we la m-raba  
 5-stone 5.of 3-square  
 「四角い石」

5-10 あの人には才能がある。／才能のある人

(122) M-tu yule a-na ki-paji.  
 1-person 1.that SM1-COM 7-talent  
 「あの人は才能がある。」

(122)' m-tu mw-enye ki-paji  
 1-person 1-with 7-talent  
 「才能のある人」

5-11 あの人は病気だ。／あの人は熱がある。／病気の人

(123) a. M-tu yule a-na-umw-a.  
 1-person 1.that SM1-PRS-be.sick-FV  
 「あの人は病気だ。」

- b. M-tu yule ni m-gonjwa.  
 1-person 1.that COP 1-sick.person  
 「あの人は病人だ。」
- (123)' M-tu yule a-na homa.  
 1-person 1.that SM1-COM 9.fever  
 「あの人は熱がある。」
- (123)'' m-gonjwa  
 1-sick.person  
 「病人」

5-12 あの人は青い服を着ている。／青い服の男

- (124) M-tu yule a-me-va-a nguo ya bluu.  
 1-person 1.that SM1-PRF-wear-FV 9.clothing 9.of blue  
 「あの人は青い服を着ている。」
- (124)' a. mw-anamume amba-ye a-me-va-a nguo ya bluu  
 1-man COMP-RM1 SM1-PRF-wear-FV 9.clothing 9.of blue  
 b. mw-anamume mw-enye nguo ya bluu  
 1-man 1-with 9.clothing 9.of blue  
 「青い服の男」

(124b)'は「青い服」を着用している場合だけでなく、手に持っているような場合でも使える。

5-13 あの人はメガネをかけている。／メガネの男

- (125) a. M-tu yule a-na-va-a miwani.  
 1-person 1.that SM1-PRS-wear-FV 9.glasses  
 b. M-tu yule a-me-va-a miwani.  
 1-person 1.that SM1-PRF-wear-FV 9.glasses  
 「あの人はメガネをかけている。」
- (125)' mw-anamume mw-enye miwani  
 1-man 1-with 9.glasses  
 「メガネの男」

現在形の(125a)は習慣的にいつもメガネをかけていること，完了形の(125b)は今かけていることを表す場合にそれぞれ用いられる。

5-14 あの人には妻がいる。／既婚の人・妻のいる人

- (126) M-tu yule a-na m-ke.  
 1-person 1.that SM1-COM 1-wife  
 「あの人は妻がいる。」
- (126)' m-tu amba-ye a-me-o-a  
 1-person COMP-RM1 SM1-PRF-marry-FV

- (126)'' a. m-tu a-li-ye na m-ke  
 1-person SM1-be-RM1 COM 1-wife  
 b. m-tu mw-enye m-ke  
 1-person 1-with 1-wife  
 「妻のいる人」

5-15 あの人には3人子供がいる。 / 3人の子持ちの人・あの人の3人の子供 / 妊娠している女性

- (127) M-tu yule a-na wa-toto wa-tatu.  
 1-person 1.that SM1-COM 2-children 2-three  
 「あの人には3人の子供がいる。」

- (127)' m-tu a-li-ye na wa-toto wa-tatu  
 1-person SM1-be-RM1 COM 2-children 2-three  
 「3人の子供がいる人」

- (127)'' a. wa-toto wa-tatu wa yule m-tu  
 2-children 2-three 2.of 1.that 1-person  
 「あの人の3人の子供も」

- cf. b. wa-toto wake wa-tatu  
 2-children 2.his 2-three  
 「彼の3人の子供も」

- (127)''' a. mw-anamke a-li-ye na mimba  
 1-woman SM1-be-RM1 COM 9.pregnancy  
 b. mw-anamke mw-enye mimba  
 1-woman 1-with 9.pregnancy  
 「妊娠している女性」  
 c. m-jamzito < m-ja m-zito  
 1-pregnant.woman 1-human 1-heavy  
 「妊婦」

5-16 タコには足が8本ある。

- (128) Pweza a-na mi-guu mi-nane.  
 9.octopus SM1-COM 4-legs 4-eight  
 「タコは足が8本ある。」

5-17 その飲み物にはアルコールが入っている。 / アルコール入りの飲み物

- (129) Ki-nywaji hicho ki-na ki-levi.  
 7-drink 7.that SM7-COM 7-alcohol  
 「その飲み物にはアルコールが入っている。」  
 (129)' ki-nywaji ch-enye ki-levi  
 7-drink 7-with 7-alcohol  
 「アルコールが入った飲み物」

5-18 あの人はお金を持っている。／お金持ちの人

(130) M-tu yule a-na pesa.  
1-person 1.that SM1-COM 10.money  
「あの人はお金を持っている。」

(130)' (m-tu wa) tajiri  
(1-person 1.of) 5.rich.person  
「お金持ち (の人)」

5-19 おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人

(131) U-na mbwa?  
SM2SG-COM 9.dog  
「あなたは犬を持っていますか？」

(131)' m-tu mw-enye mbwa  
1-person 1-with 9.dog  
「犬のいる人」

5-20 おまえは (自分の) ペンを持っているか？／ペンを持っている人

(132) U-na kalamu yako?  
SM2SG-COM 9.pen 9.your  
「あなたは自分のペンを持っていますか？」

(132)' m-tu mw-enye kalamu  
1-person 1-with 9.pen  
「ペンを持っている人」

5-21 あの人は (誰か別の人の) ペンを持っている。

(133) M-tu yule a-na kalamu ya m-tu (mwingine).  
1-person 1.that SM1-COM 9.pen 9.of 1-person (1.other)  
「あの人は (別の) 誰かのペンを持っている。」

5-22 あの人は運がいい。／幸運な人

(134) M-tu yule a-na bahati.  
1-person 1.that SM1-COM 9.luck  
「あの人は運がいい。」

(134)' m-tu mw-enye bahati  
1-person 1-with 9.luck  
「運がいい人」

5-23 ここは石が多い。／石の多い土地

(135) Hapa pa-na ma-we mengi.  
here16 SM16-COM 6-stones 6.many  
「ここは石が多い／たくさんの石がある。」

- (135) a. ardhi y-enye ma-we mengi  
 9.land 9-with 6-stones 6.many  
 b. ardhi ya ma-we  
 9.land 9.of 6-stones  
 「石の多い土地」

(135b)'は文字どおり訳すと「石の土地」となる。少し曖昧ではあるが、それでも「石の多い土地」の意味になる。

- (136) a. Chumba hiki ki-na vi-ti vi-tatu.  
 7.room 7.this SM1-COM 8-chairs 8-three  
 「この部屋は3つの椅子がある。」  
 b. Ku-na vi-ti vi-tatu katika chumba hiki.  
 SM17-COM 8-chairs 8-three in 7.room 7.this  
 「この部屋に3つの椅子がある。」

いずれも所有構文が用いられているが、(136a)は「この部屋」が主題化されているのに対し、(136b)は英語の There are three chairs にあたる中立叙述文である。

- (136)' chumba ch-enye vi-ti vi-tatu  
 7.room 7-with 8-chairs 8-three  
 「3つの椅子がある部屋」

5-25 テーブルの上にスプーンがある。 / スプーンのあるテーブル

- (137) Ku-na ki-jiko juu ya meza.  
 SM17-COM 7-spoon 9.top 9.of 9.table  
 「テーブルの上にスプーンがある。」  
 (137)' ?meza y-enye ki-jiko  
 9.table 9-with 7-spoon  
 「スプーンのあるテーブル」

(137)'は少し不自然であるとのことだが、調査協力者からの代案がなかった。そもそもこのような状況の表し方をしないのだと思われる。

5-26 そのスプーンはテーブルの上にある。 / テーブルにあるスプーン

- (138) a. Ki-jiko hicho ki-po meza-ni.  
 7-spoon 7.that SM7-EXT16 9.table-LOC  
 b. Ki-jiko hicho ki-po juu ya meza.  
 7-spoon 7.that SM7-EXT16 9.top 9.of 5.table  
 「そのスプーンはテーブルの上にある。」  
 (138)' a. ki-jiko ki-li-cho-po meza-ni  
 7-spoon SM7-be-RM7-EXT16 9.table-LOC

- b. ki-jiko ki-li-cho-po juu ya meza  
7-spoon SM7-be-RM7-EXT16 9.top 9.of 5.table  
「テーブルの上にあるスプーン」

5-27 そのペンは私のだ。・そのペンは太郎のだ。／私のペン・太郎のペン

- (139) Kalamu hiyo ni yangu.  
9.pen 9.that COP 9.my  
「そのペンは私のです。」
- (139)' Kalamu hiyo ni ya Baraka.  
9.pen 9.that COP 9.of 1.Baraka  
「そのペンはバラカのです。」
- (139)'' kalamu yangu  
9.pen 9.my  
「私のペン」
- (139)''' a. kalamu yake Baraka  
9.pen 9.her 1.Baraka  
b. kalamu ya Baraka  
9.pen 9.of 1.Baraka  
「バラカのペン」

5-28 昨日，学校で火事があった。／私は明日用事があります。

- (140) a. Ku-li-kuw-a na moto shule-ni jana.  
SM17-PST-be-FV COM 3.fire 9.school-LOC yesterday  
「昨日学校で火事があった。」
- b. Jana moto u-li-toke-a shule-ni.  
yesterday 3.fire SM3-PST-occur-FV school-LOC  
「昨日学校で火事が起きた。」
- (140)' Ni-ta-kuw-a na shughuli kesho.  
SM1SG-FUT-be-FV COP 9.activity tomorrow  
「私は明日用事がある。」

5-29 (この世には) お化けなんていない。

- (141) Ha-ku-na mi-zimu dunia hii.  
NEG-SM17-COM 4-spirits 9.world 9.this  
「この世に幽霊はいない。」

(141)は「～はない」という通常の存在文の否定で，特に「～なんて」にあたるような表現というわけではない。

5-30 (そこには) 英語を話す人もいるが、話さない人もいる.

- (142) Ku-na baadhi (ya wa-tu) wa-na-o-onge-a Ki-ingereza lakini wengine  
 SM17-COM 9.some (9.of 2-people) SM2-PRS-RM2-speak-FV 7-English but 2.other  
 ha-wa-onge-i.  
 NEG-SM2-speak-NEG.FV

「英語を話す人もいるが話さない人もいる。」

5-31 私より英語ができる人は (ほかに／もっと) います.

- (143) Ku-na wa-tu wengine wa-na-o-ju-a Ki-ingereza kuliko mimi.  
 SM17-COM 2-people 2.other SM2-PRS-RM2-know-FV 7-English more.than 1SG

「私よりも英語を知っている人が他にいる。」

5-32 ちょっとあなたにお願いがあります.

- (144) Ni-na-tak-a ku-ku-uliz-a (ki-tu).  
 SM1SG-PRS-want-FV INF-OM2SG-ask-FV (7-think)

「あなたに尋ねたい。」

5-33 冬の雨／東京の家

- (145) mvua ya majira ya baridi kali  
 9.rain of 9.season 9.of cold stern

「冬の雨」

- (145)' a. nyumba ya Tokyo  
 9.house 9.of 9.Tokyo

「東京の家」

- b. nyumba i-li-yo-mo Tokyo  
 9.house SM9-be-RM9-EXT18 9.Tokyo

「東京にある家」

5-34 彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発／車の運転／～の小説

- (146) u-ogeleaji wake  
 11-swimming 11.his

「彼の泳ぎ」

- (147) m-lio wa mbwa  
 3-cry 3.of 9.dog

「犬の鳴き声」

- (148) m-lipuko wa volkeno  
 3-explosion 3.of 9.volcano

「火山の爆発」

- (149) u-endes haji wa motokaa  
 11-driving 11.of 9.car

「自動車の運転」

- (150) a. riwaya ya Baraka  
9.novel 9.of 1.Baraka  
b. riwaya yake Baraka  
9.novel 9.his/her 1.Baraka  
「バラカの小説」

5-35 Xさん（固有名詞）のお母さん／机の横に／机の前に／あの人の次

- (151) mama yake Baraka  
9.mother 9.her/his 1.Baraka  
「バラカのお母さん」  
(152) a. karibu na meza  
9.near COM 9.table  
「テーブルの近く」  
b. kando ya meza  
9.aside 9.of 9.table  
「テーブルの傍ら」  
(153) mbele ya meza  
9.front 9.of 9.table  
「テーブルの前」  
(154) baada ya m-tu yule  
9.after 9.of 1-person 1.that  
「あの人の後」

場所を表す表現では，対象物との間に属辞を入れるのが通常であるが，(152a)の *karibu* 「近く」および *mbali* 「遠く」は例外的に *na* が用いられる．

5-36 バラの花びら／果物のナイフ／紙の飛行機／チューリップの絵／花の匂い／英文の手紙／日本語の先生／井戸の水／雨の日

- (155) petali ya waridi  
9.petal 9.of 5.rose  
「バラの花びら」  
(156) a. ki-su cha ma-tunda  
7-knife 7.of 6-fruits  
「果物のナイフ」  
b. ki-su cha ku-kat-i-a ma-tunda  
7-knife 7.of INF-cut-APPL-FV 6-fruits  
「果物を切るナイフ」

(156a)も調査協力者が OK とした表現ではあるが，一般的に聞かれるのは(156b)のほうである．

- (157) eropleni ya karatasi  
 9.plane 9.of 5.paper  
 「紙の飛行機」
- (158) picha ya waridi  
 9.picture 9.of 5.rose  
 「バラの絵」
- (159) harufu ya ua  
 9.smell 9.of 5.flower  
 「花の匂い」
- (160) a. barua ya Kiingereza  
 9.letter 9.of 7-English  
 b. barua kwa<sup>9</sup> Kiingereza  
 9.letter in 7-English  
 「英語の手紙」
- (161) mw-alimu wa Ki-japani  
 1-teacher 1.of 7-Japanese  
 「日本語の先生」
- (162) ma-ji ya ki-sima  
 6-water 6.of 7-well  
 「井戸の水」 cf. (106, 107)
- (163) siku ya mvua  
 9.day 9.of 9.rain  
 「雨の日」

5-37 妹の花子／社長の田中さん

- (164) m-dogo wangu wa kike Hanako  
 1-small 1.my 1.of female 1.Hanako  
 「妹の花子」
- (164)' a. m-kurugenzi, Tanaka  
 1-director 1.Tanaka  
 「社長の田中さん」
- b. Bw. Tanaka, m-kurugenzi (wa kampuni yetu)  
 Mr. Tanaka 1-director (1.of 9.company 9.our)  
 「(私たちの会社の) 社長の田中氏」

(Bw.) Tanaka を前に置くにしても後ろに置くにしても, *mkurugenzi* 「社長」との間にコンマを入れなければ不自然である.

<sup>9</sup> 他のところでは‘for’というグロスを付けているが, *kwa* はスワヒリ語の数少ない前置詞であり, ‘for’に限らず, 英語の‘in, with, to, by’にあたるような意味で用いられるなど, 表す範疇は極めて広い.

5-38 となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ（が昨日突然パンクしたんだって.）

- (165) a. taili la gari la baba wa rafiki yangu wa jirani  
 5.tyre 5.of 5.car 5.of 9.father 1.of 9.friend 9.my 1.of 5.neighbour
- b. taili la gari la baba yake rafiki yangu wa jirani  
 5.tyre 5.of 5.car 5.of 9.father 9.his 9.friend 9.my 1.of 5.neighbour
- c. taili la gari la baba wa rafiki yangu a-na-ye-ishi jirani  
 5.tyre 5.of 5.car 5.of 9.father 1.of 9.friend 9.my SM3SG-PRS-RM1-live 5.neighbour  
 「近所の友だちのお父さんの車のタイヤ」

すべてを属辞でつないだのが(165a)である。これも可能であるが、「友だちのお父さん」のところで所有詞を用いた(165b)や、「近所の友だち」のところを「近所に住む友だち」という関係節にした(165c)のほうが好まれるようである。なお、*baba*「お父さん」*rafiki*「友だち」は9クラスに属するが、所有詞以外はいずれも1クラス名詞としてふるまう。(165a,b)で*baba*の後ろの属辞が1クラスの形になっているのはそのためである。

## 8. おわりに

以上、『語学研究所論集』第14-18号（2009-2013年）の5つの特集テーマに関するスワヒリ語のデータを示してきた。教科書や文法書に書かれている表現のなかには、調査協力者が容認しないものや実際には使わないというものもあった。このようなスワヒリ語話者間の認識の違いは現地調査を行っているときにも頻繁に見られる。それらが世代差なのか地域差なのか、あるいはその両方なのか、さまざまな可能性が考えられるが、いずれにしても、彼らが「標準スワヒリ語」と呼んでいるものの中にもバリエーションが見られるということである。

本稿では、『語学研究所論集』の10の特集テーマのうち、前半の5つのデータのみの提供となったが、後半の第19-22号（2014-2018年）の5つの特集テーマについてもデータの提供できるように準備を進めていく予定である。

### 略語：

1SG, 2SG, 3SG: 一人称単数, 二人称単数, 三人称単数, 1PL, 3PL: 一人称複数, 三人称複数, APPL: 適用形 applicative, CAUS: 使役形 causative, COM: 随伴 comitative, COMP: 補文標識 complementizer, COMPV: 完了2 completive, COND: 条件 conditional, CONJ: 接続詞 conjunction, CONS: 継起 consecutive, EXT: 存在辞 existencial, FV: 基本末尾辞 final vowel, HAB 習慣 habitual, INTER: 疑問 interrogative, IRR: 仮想形 irrealis, LOC: 場所 locative, OM: 目的語接辞 object marker, POT: 可能形 potencial, PRF: 完了1 perfect, PRS: 現在 present, PST: 過去 past, RECP: 相互形 reciprocal, REFL: 再帰接辞 reflexive, SBJV: 接続形末尾辞 subjunctive, SEP.INTR: 反転自動詞形 separative / reversive intransitive, SEP.TR: 反転他動詞形 separative / reversive transitive, SIML: 同時 simultaneous, SM: 主語接辞 subject marker, STT: 状態形 stative, TA: テンス・アスペクト tense and aspect.

### 参考文献

- Eberhard, David M., Gary F. Simons and Charles D. Fennig (eds.) 2022. *Ethnologue: Languages of the World*. Twenty-fourth edition. Dallas: SIL International.
- Hammarström, Harald. 2019. An inventory of Bantu languages. In Mark Van de Velde, Koen Bostoen, Derek Nurse

and Gérard Philippson. *The Bantu Languages*. London/NY: Routledge. 17-78.

Wilson, Peter M. 1985. *Simplified Swahili*. Harlow: Longman.

Yoneda, Nobuko. 2022. 'Noncausal/causal verb alternations in Swahili.' *Linguistique et Langues Africaines*.8(2)  
<https://journals.openedition.org/lla/4561>

中島久. 2000. 『スワヒリ語文法』 大学書林.

米田信子. 2015. 「スワヒリ語における有対動詞：派生の形式と動詞の意味を中心に」 パルテシ, プラシ  
ヤント・ハイコ ナロック・桐生和幸 (編) 『有対動詞の通言語的研究』 くろしお出版. 351-368.

執筆者連絡先 : yoneda.nobuko.hmt@osaka-u.ac.jp; miyazaki.kumiko.hmt@osaka-u.ac.jp

原稿受理 : 2024 年 12 月 9 日